

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	34	ツイートしてもらえるまちに ～裾野市の誇りを育てろ大 作戦！～	裾野市
アイデア名 (公開)	すそのん Go!		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	すそのん Go!		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	大庭瑤子	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何を、どこです、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

タイトルは仮称です、プロジェクト継続するため、改めて名前をつけます。

【課題】裾野市で発信できる情報が少ない。

→ SNSは特定の人しか見ていない、「すそのん」などのキャラクター活用ができていない。

【誰が実施するか】学生 & IT ボランティア

【誰に対するサービスか】若者

【概要】

- ・市のイベント等の情報拡散、自営業の収入アップ、市民をつなげる、まちの練り歩きアプリ
- ・ポケモン Go のようにQRコードを使って「すそのん」を見つけて写真に撮る
- ・すそのんのレア度別に分けてプレゼントに応じてレア度を上げる
- ・出現して欲しい店は広告料を払う

【価値】

- ・練り歩きのきっかけ作り
- ・市のイベント等の情報拡散
- ・地元商店の活性化

【詳細】

- すそのんを探し、ポイントを集めることで、買い物で割引できるようになり利用者が増える、また、行ったことのない店も発見できる。
- 店側から掲載広告料を採るモデルも考えられる。
- 近隣に買い物に行っていた層を地元の買い物にひきつけることで経済効果がある。
- 親は買い物、子供はすそのんが好きという効果によって、他の土地に移住しないように土地への愛情をもってもらう。

【アイデアシート】

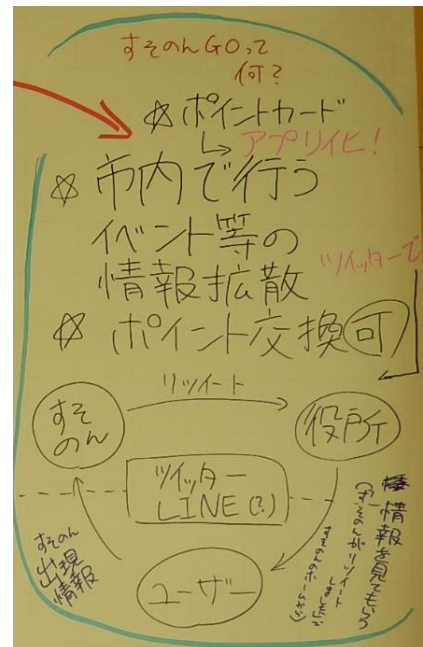
<https://www.flickr.com/photos/149130683@N02/30816201982/>

【リーンキャンバス】

<https://www.flickr.com/photos/149130683@N02/31234667456/>

【シナリオ】

<https://www.youtube.com/watch?v=8oM1VbTdDgU&feature=youtu.be>



(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

【調査項目】

確認項目	出典	効果/価値
公共施設	裾野市公共施設情報	88 箇所 QRコード設置箇所
子供の人口	裾野市年齢別人口統計 20130401	3-18 才 8271 人
ツイート数	裾野市年齢別人口統計 20130401 13-40 才の人口 利用率 Gaiax 調べ ターゲット数	18700 人 約 40 % 8000 名程度
開発期間	Code for Numazu にヒアリング	1 人月 (Code for Numazu にプロトタイプは依頼する)
運用費用	サーバーレンタル Code for Numazu にヒアリング	年間 1.2 万円

【効果算出】

・ツイート数増加①

ターゲット 8000 名が、毎月 10 箇所ポイントゲットし、呟く想定

・ポイント交換②

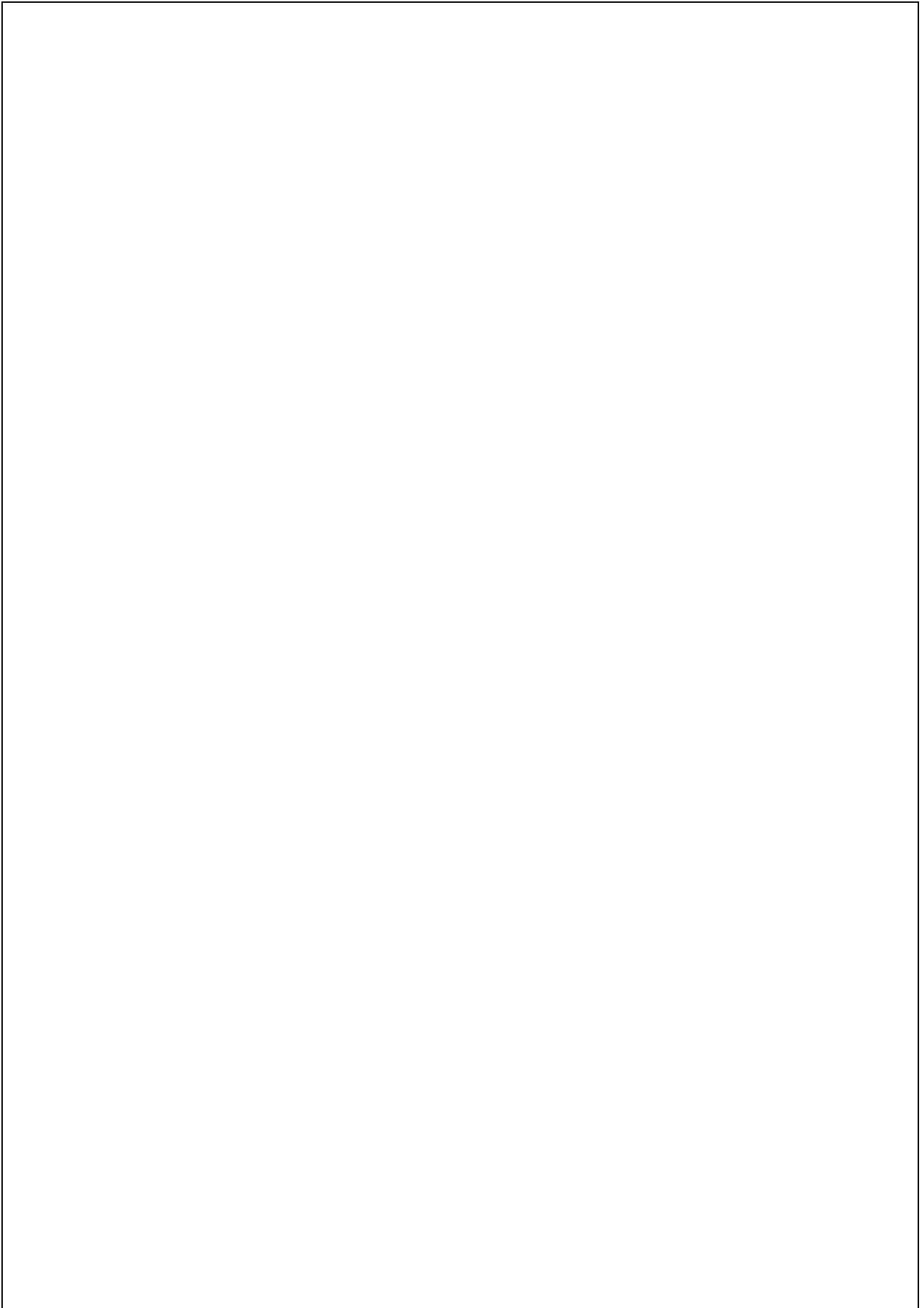
月一回、50%のターゲットが商店街での買い物する回数が増えると想定。
食品関係を例とし、利益率 10%、一回の買い物あたり 2 千円の想定し
1 回当たり、ポイントとの相殺して、100 円の利益増加と見込み
 $100 \text{ 円} \times 4000 \text{ 人} \times 12 \text{ ヶ月} = 960 \text{ 万円の利益増}$

・広告依頼収入

一ヶ月 1 万円 * 依頼店舗数

効果①+② > 開発費用 + 運用費用

初期では、地元 IT 団体と学生のコンビネーションで開発し、プロトタイプを繰り返し進める予定。
実際に利益化できれば、事業化を再度検討する。



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

【期間】

数ヶ月でプロトタイプをテストし、1年以内にIT教育含めて大規模化する。

<12月>

- ・プロジェクトチームを結成し、基本機能を開発する。
既にプロトタイプは、Code for Numazu で雛形作成済み。
プロジェクトとして、2017年より開始する予定。
すそのんの画像申請は年初に行う。

<1月～>

- ・中学生と、Code for Numazu で IT 勉強会 & プロトタイプ開発
実際に利用する学生集めはPJメンバーの学生に手伝っていただき
市役所の施設の利用許可を企画課・広報課と相談し、対象施設を確定させる。
IT 勉強会で、雛形のソースコードの利用方法や開発方法を Code for Numazu から
学生・地域に伝授し、実際にフィールドワークで利用実験をする。

<6月ぐらい目処>

- ・実証実験の際には、メディアも巻き込み、宣伝効果を高める。
- ・引き続きIT勉強会を実施する。裾野市ではIT勉強会は少ないため
市民協働として、市民向けセミナーの形にできないか市役所の担当部署と計画を立てる。

<12月ぐらい目処>

- ・すそのんの新デザインも募集する。
- ・利用数が伸びてくれば、観光客向けにも開放。
裾野市に来た方々がさらに炫ける仕組みを作る。（観光場所とポイントの連携もする）
- ・広告参加企業を募り、事業化をする。学生発のベンチャーとしてさらに情報を展開する。

【全体図】

<https://www.flickr.com/photos/149130683@N02/31102809823/in/dateposted-public/>

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

- ・既にプロトタイプまで進めていること。
- ・中学生チームと Code for Numazu でチームを作り、IT 勉強会 + 学生による開発の場を作ることが決まったこと。
- ・事業化に向けて、市役所を巻き込み、実証実験を実施していく計画を 1 月より打ち合わせ開始。

- ・今度、政策で出ている、地域ポイントに進められないか、企画室とも話を引き続きすすめる。
- ・地域通貨の代わりとなるか、このアプリで露払いとしての実験を行う。

- ・IT 勉強会と、効果を組み合わせた事例になる予定。